

製品名: SENP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17725**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	68kDa

抗原情報

遺伝子名	SENP2
別名	SENP2; KIAA1331; Sentrin-specific protease 2; Axam2; SMT3-specific isopeptidase 2; Smt3ip2; Sentrin/SUMO-specific protease SENP2
遺伝子 ID	59343.0
SwissProt ID	Q9HC62
免疫原	抗血清はヒト SENP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 481-530

背景

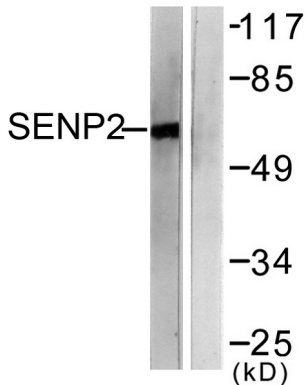
SUMO1 (UBL1; MIM 601912) は、他のタンパク質と共有結合できる小さなユビキチン様タンパク質です。SENP2 は、新しく合成

されたSUMO1を結合可能な形態に処理し、SUMO1を含む種の脱結合を触媒する酵素群の1つです。[OMIM提供、2004年4月],ドメイン: N末端は核膜標的化に必要かつ十分です。機能: SUMO経路における2つの重要な機能、すなわち全長SUMO1、SUMO2、SUMO3を成熟型に処理し、標的タンパク質からSUMO1、SUMO2、SUMO3を脱結合させる機能を触媒するプロテアーゼです。CTNNB1レベルをダウンレギュレーションし、それによってWnt経路を調節する可能性があります。PTM: ポリユビキチン化;プロテアソームによる分解につながる。類似性: ペプチダーゼC48ファミリーに属する。細胞内局在: 細胞質と核の間を往復する。サブユニット: SUMO2およびSUMO3に結合する(類似性による)。N末端を介してNUP153のC末端ドメインと相互作用する。

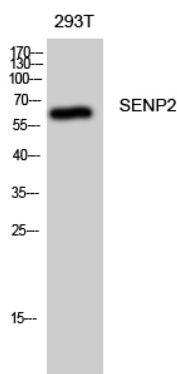
研究分野

WNT;WNT-T細胞

画像データ



MDA-MB-435細胞ライセートのSENP2抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000希釈のSENP2ポリクローナル抗体を用いた293T細胞のウェスタンブロット解析